

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」および「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」の設問の正答率はそれぞれ 86.8%、60.4%と全国の平均正答率よりも上回った。特に、「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」設問は、全国の平均正答率よりも7%ほど高かった。
●漢字の使い方については、3題中全て全国平均正答率を下回った。「期間」という漢字については、本校の正答率は56.6%で、全国の平均正答率72.6%を15%以上下回った。無回答率も他の問題よりも高い傾向にあった。漢字の習得・活用はもちろん、粘り強く最後まで問題に取り組む姿勢も培っていききたい。

《情報の扱い方に関する事項》

○「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」設問では、75.5%の児童が正答しており、全国の平均正答率よりも10%以上上回った。
●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」設問では、全国平均正答率を5%程度下回った。資料の情報をどのように整理しているかの設問を問う問題であったが、正しく選択できた児童は56%程度にとどまった。資料をどう読み取り、判断するか、今後も繰り返し取り組んでいく必要がある。

《話すこと・聞くこと》

○インタビューの中で「伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる」という設問では、全国平均正答率が74.0%に対し、本校の正答率は81.1%と高かった。
●「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」設問では、正答率が60%程度で、全国平均の正答率よりも若干下回っていた。学習指導要領では、「対話的な学び」が重視されているため、国語だけでなく様々な教科・領域でスピーチやディベート、プレゼンテーション等の活動を取り入れていくことが必要である。

《書くこと》

●「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」の設問では、本校の平均正答率が20.8%と、全ての設問の中で一番低かった。全国の平均正答率も26.7%と低い値ではあるが、これより5%以上下回った。この設問は60字以上100字以内で書くという記述式ということもあり、正答率が低かったようだ。しかし、無回答率は、全国や神奈川県が無回答率より低かった。このような記述式の解答に慣れていないか、苦手意識をもっている児童が多いようである。設問に対し、粘り強く考える力を育成するとともに、引き続き、作文や感想文など、「書く」学習に力を入れていきたい。

《読むこと》

○「読むこと」に関する設問は3題出題されたが、うち2題は全国平均正答率よりも4%程度上回り、また、いずれも70%~90%以上の高い正答率であった。特に「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要

約することができるかどうかをみる」の設問では、94.3%の児童が正答した。運動に関する2つの資料を正確に読み込み、何について、どのように書かれているのかについて正しく掴むことができていた。また、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」の設問は、全国平均正答率を3%程度下回ってはいたが、苦手な記述式にも関わらず正答率は52.8%と半数以上の児童が正答できていた。一方無回答率では、全国平均より下回った。

《児童質問紙 国語に関する質問》 問43～50、国1・国2

「国語の勉強は好きですか」の質問では、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした児童を併せると78.2%であり、全国の割合61.5%と比較すると15%以上上回った。また、「国語の勉強は大切だと思うか」と「国語の授業の内容はよく分かるか」の質問においても、全国平均正答率よりもやや上回っていた。

一方、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」と「国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいるか」の質問では、いずれも90%前後と、全国の割合とほぼ同率であった。

また、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題があり、それらの問題について、どのように解答したか」という質問は、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は、全国の割合とほぼ同率で81.8%が努力したと答えた。また、「書く問題は全く解答しなかった」と回答した児童はゼロであった。しかし、実際には、記述式の設問で無回答率が高いものがあり、問題をしっかりと理解し、最後まで諦めず取り組む粘り強さが求められる。

解答時間45分については、「時間が余った」と「ちょうどよかった」を合わせた割合は60%で、全国の平均の割合よりも5%程度低かった。

【 算数 】

《数と計算》

○「 50×40 の計算」及び「運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める」設問は、各々88.7%、79.2%の高い正答率で、どちらも全国の平均正答率を上回った。「3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する」と「 $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ」設問では、全国平均の正答率より各々10%、20%程度上回ったが、正答率は60%台で、30～40%弱の児童が理解できていない。

《図形》

○「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問では、96.2%の児童が理解できており、全国の平均正答率よりも9%上回った。また、「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問も70%近くの児童が理解できており、こちらも全国平均正答率を10%上回った。一方、「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問では、全国平均正答率を8%程度、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」設問は、全国平均正答率を5%程度上回ってはいるが、各々の正答率は、43.4%、26.4%と半数以上の児童が理解できていないため、三角形の性質についての基本の見直し、記述問題への対応など引き続き徹底して取り組んでいく。

《変化と関係》

○「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言

葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、椅子4脚の重さが7kgであることを基に、椅子48脚の重さの求め方と答えを求めさせたが、記述式ということもあり66%の正答率であった。しかし、全国平均正答率よりも10%近く上回っていた。また、無回答率も1.9%と全国平均の3.4%と比べ低い値であった。

また、「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」設問では、全国平均正答率よりも7%近く上回っていたが、正答率は52.8%と半数程度の正答率であった。百分率で表された割合について定着するまで、しっかりと理解させていく必要がある。

《データの活用》

○「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、70%近くの児童が理解できており、全国平均正答率よりも15%近く上回った。また、記述式の設問にも関わらず、無回答率が3.8%と低く、これは全国平均の無回答率13.8%と比べると10%も低い値であった。ただし、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」設問では、全国平均正答率をやや上回ったが、66%の正答率でやや低かった。また、無回答率も5.7%と全国平均より高い数値であった。この領域については今後重点的に指導を行う必要がある。

《児童質問紙 算数に関する質問》 問51～54、算1・算2

「算数の勉強は好きか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は合わせて72.2%で、全国平均の61.4%及び神奈川県平均の61.3%より10%以上上回った。また「算数の勉強は大切だと思うか」という設問においては、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は合わせて100%で、全国平均の94.2%より上回った。他にも、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」という設問にも、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は100%であった。今回の調査では、算数の設問において全ての問題及び質問項目で全国の平均値を上回っていた。算数の楽しさをより多くの児童に味わってもらうため、決まった公式を、決まった方法で使い、解くことに加え、引き続き、計算や文章題など、自分なりに工夫して解く方法を考え、発表する学習も多く取り入れていきたい。

「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題があったが、それらの問題について、どのように解答したか」という設問では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は92.7%で、全国の割合80.3%より10%以上高かった。また、解答時間45分については、「時間が余った」と「ちょうどよかった」を合わせた割合は87.3%で、全国の平均の割合84%よりもやや上回った。

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

子ども自身に関する質問で、「朝食を毎日食べているか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、89.1%で、全国平均、神奈川県平均よりも5%ほど高い割合であった。「毎日、同じくらいの時間に寝ているか」「毎日、同じくらいの時間に起きているか」についての質問では、「当てはまる」と回答した児童はそれぞれ52.7%、67.3%で、これらは全国平均、および神奈川県平均を10%以上上回った。基本的な生活習慣は全国的に比べたら身につけているように感じるが、就寝時間がまちまちであることなどから、引き続き家庭と協力しながら改善を求めていきたい。

次に、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問では、「当てはまる」と回答した児童は、67.3%と全国平均よりやや高かったが、裏を返せば30%以上の児童がまだ、夢や希望をもっていないようである。しかし、「人の役に立つ人間になりたいか」という問いでは、83.6%もの児童が「当てはまる」と回答しており、全

国平均より8%高い。この時期の児童は、将来の目標はまだ決まっていないが、将来は何か人や社会の役に立ちたいと考える児童が比較的多いという傾向が伺えた。

学校生活に関して、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童が96.4%おり、全国平均、神奈川県平均とほぼ同等の割合であった。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問で「当てはまる」と回答した児童は56.4%で、全国平均より10%ほど高いが60%は割っている。本校が願う子どもの育ちの姿の一つとして、「お互いを理解し助け合い補い合いながら、共に困難を乗り越えて成長していくことができる子ども」とあり、弱者の気持ちに寄り添う、人の悲しみや苦しみを自分事として感じ、手を差し伸べてあげられる人になってほしいことから、一層、道徳教育に力を入れていきたい。

地域や社会参加に関して、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問では、「当てはまる」と回答した児童の割合は25.5%と低い値であるが、神奈川県平均、全国平均よりも上回っている。コロナ禍の影響も残ってはいるが、小坪地区は地域を挙げてのお祭りや行事が盛んなことから、今後は参加する児童も増えてくると思う。しかし、「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思うか」の質問では、「当てはまる」と回答した児童は54.5%おり、全国平均より20%以上上回っていた。小坪の地域性もあり、地域に貢献したいと考えている児童は比較的多くいるようである。

「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できたか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合は76.4%と、全国平均63.7%よりも10%以上上回っていた。さらに、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思うか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合も91%おり、全国平均81%より10%ほど上回っていた。本校では、「小坪っ子タイム（総合的な学習の時間）」や生活科の授業を中心に主体的・対話的な活動を多く取り入れながら、研究を推進しており、これまでの取り組みが実を結んできたと言える。今後もより充実させながら実践を積み重ねていきたい。

また、本市本校では、児童一人に一台の端末（chromebook）を配布するなど、ICTを積極的に活用した授業を進めている。「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問では、「ほぼ毎日」と回答した児童は63.6%と全国平均28.2%をよりも35%以上も上回っていた。引き続き、ICTの様々な活用を模索していきたい。

最後に、英語学習についての質問で、「英語の勉強は好きか」という問いに「当てはまる」と回答した児童の割合は61.8%と、神奈川県平均及び全国平均38.6%よりも23%以上上回っていた。英語専科の工夫や努力、IEAの積極的活用などにより、「英語好き」の子どもたちを増やしている。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

①いじめの根絶に向けて

「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問では、3.6%の児童が、「どちらかと言えばあてはまらない」と回答しているため、今後もいじめの根絶に向け、粘り強く指導していきたい。そして、全児童が「いじめは絶対に許さない」という意識をもつようになるまで、引き続き、道徳教育の充実等を一層進め、「いのちを大切にする授業」「友だちを大切にしたり、人を思いやる気持ちをもたせたりする授業」を多く取り入れ、いじめ・暴力の未然防止や早期発見・早期解決を目指す。

②支援教育の一層の充実に向けて

本校では3名の教育相談コーディネーターが役割を分担しながら、相談業務を行い、担任をはじめ管理職、場合によっては巡回スクールカウンセラーを交えて、随時ケース会を開いている。また、定期的に校内支援委員会、支援会議を開催し、教職員全体で支援の必要な児童についての情報共有を図っている。しかしながら、児童質問紙で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いで、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と答えた児童の割合が23.7%と多いことや、軽重含め、新たなケースも増加していることから、一次支援を重点的な柱とし、支援教育の一層の充実を図っていく。

③校内研究の推進に向けて

本校では、これまで研究講師の吉田豊香先生の指導を仰ぎながら、「小坪っ子タイム（総合的な学習の時間）」「生活科」を柱に、授業の中で「主体的・対話的で深い学び」の展開を積極的に行っている。児童自ら課題を見つけ、解決しようとしたり、話し合い活動を通して、自分の考えや友だちの考えを伝え合ったりする活動を多く取り入れ、「『主体的・対話的で深い学び』を目指した授業づくり」の研究テーマに迫るため、研究をさらに推進する。

④地域連携の強化に向けて

今回の調査結果では、「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は92.7%で、全国平均76.8%より15%ほど上回っている。児童は地域と積極的に関わりたいことを欲しているようである。また地域の方も子どもたちの成長に一生懸命関わってくださっており、地域との関りがとても深く、また海が身近にある小坪地区では、地域の方と連携しながら、学校と共に児童の育成を担うことが大切であると改めて感じた。本校の目指す子ども像の一つに「地域と共にたくましく生きぬく子」とあるようにこれからも地域との連携を一層強化していく。

⑤ICT教育の推進に向けて

すでに児童一人ひとりに端末（chromebook）が配布され、様々な授業や行事等で活用を図っている。児童質問紙の「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問では、「ほぼ毎日」と回答した児童は63.6%おり、児童の使用頻度は高い。しかし、学級や学年閉鎖になった時や、学校が休校した時に、chromebookのより効果的な活用の仕方、また家庭での学習にICTをどう活用していくのか（反転学習）等については、引き続き検討していく必要がある。今後も、chromebookを使った実践事例を増やしていき、教員同士で共有を進めていく。